国営備北丘陵公園の現状分析とその活用について

―― 今後の庄原市の地域振興を考えるために ――

M031759　藤　原　義　正

1．序　論

筆者は日本国の約７割の面積に及ぶ中山間地域における地域振興に強い問題意識を抱き，庄原市をその研究フィールドとし，交流人口増加による持続的発展を目指し，国営備北丘陵公園を活用した地域振興における課題の検討することを研究の目的とした。そのため，庄原市の概要と地域問題，国営備北丘陵公園の概要とその活用に関する整理，国営公園の整備効果体系の明確化，国営備北丘陵公園を活用した地域振興につき他の国営公園との整備効果を分析を行い，国営備北丘陵公園を活用した地域振興戦略における課題の検討を行った。

2．庄原市の地域問題と国営備北丘陵公園の活用について

庄原市には，歯止めなき人口減・少子高齢化，産業の停滞等の大きな問題が存在する中で，交流人口の増加という有利な点が見出され，庄原市に存在する社会的共通資本の中でも最大の交流人口を得ている国営備北丘陵公園に着目し，それを活用した地域振興について，研究を進めた。

3．国営備北丘陵公園と他の国営公園の整備効果分析

備北公園と国営みちのく杜の湖畔公園，国営常陸海浜公園，国営越後丘陵公園，国営讃岐まんのう公園の地域経営貢献効果，イメージ効用効果，利用効果，交通基盤整備効果を定量的に分析し，比較考察した。

そのため，まず各公園の入園者数の平均，入園者の伸び率，地元地域の入り込み観光客数に占める公園入園者数の割合を計算し，100%から0%の間に位置付けて指標とし，比例換算して評点をつけた。

次に各公園が吸引力どおりの入園者を得ているか否かを明確化することをねらいとし，各公園から概ね半径150km に所在する市に対する吸引力を計算し，100%から０%の間に位置付けることを指標とし，グラビティ・モデルを用いて吸引力を計算して評点をつけた。

次に大型イベントが公園のイメージをどの程度高揚させているかを明確化することをねらいとし，年間入園者に対する大型イベント開催時の入園者の割合を基に100%から0%の間に位置付けて指標とし，評点をつけた。

次に大型イベントの中でも企業によるイベントが公園のイメージをどの程度高揚させているかを明確化することをねらいとし，大型イベント開催時の入園者数に占めるイベント関係企業主催に係るイベント開催時の入園者数の割合の多さを基に100%から0%の間に位置づけて指標とし，比例換算により評点をつけた。

次に公園の建設に伴い新設された道路及び公園へのアクセス道路として利用されている公園建設前に既設されていた道路がどれほど地元における交通ネットワークの形成に資しているかを明らかとすることをねらいとし，公園へのアクセス道路として利用されている公園建設前に既設されていた道路及び公園の建設に伴い新設された道路を紐帯とし公園建設前と公園建設後それぞれの主要拠点における中心性の高さの合計を出してその差を求めさらにその向上率を求めて100%から0%の間に位置づけて指標とし，Wasserman らの中心性の標準化による分析（Wasserman & Faust 1994）を用い，比例換算して評点をつけた。

さらに各公園の所在する地域が公園が建設されたことによって観光・集客施設間の連結性がどの程度向上したのかを明らかにすることをねらいとし，公園建設前と建設後の近接性指標をそれぞれ合計し，その差を求め100%から0%の間に位置づけて指標とし，Beauchamp の「拠点間の近接性指標」を用い評点をつけた。

4．地域振興戦略に着目した国営備北丘陵公園と他の国営公園との比較分析

比較分析結果から，備北公園の評価できる点は，吸引力の低さを克服し多くの入園者を得ていること，魅力あるイベントを多く開催していること，効果的な交通ネットワーク形成がなされていること，入り込み観光客の市内全域回遊への期待が持てることであった。

5．国営備北丘陵公園の活用と庄原市の地域振興に関する課題

国土交通省は，「備北公園を核として，周辺地域との連携を図りつつ，広域的なレクリエーションネットワークを形成し，中国地方の歴史的，文化的，自然的資源の情報発信基地として位置付けている」としているものの，実際はそれを為しえておらず，このことは地域経営にとって大きな課題となっている。また，備北公園は大型イベント開催により著しく低い吸引力を大きく補完しているものの，さらにリピーターを増やし，新たな入れ込み客を吸引するため，そのニーズに合った魅力的イベントを開催することが必要であると考える。

一方で，庄原市が，本分析対象地域，さらに他地域からの客を得，市全域への回遊・滞在による活性化を図るためには，行政，関係業界，住民による観光マーケティング，この地域における観光デザインの立案し，ビジネスモデルの確立が重要であると思えた。また，住民参加による内発融合型の運動，観光人材の育成や観光業・観光支援業の創出が課題であると思われた。そして，厳しい財政状況等を克服し，交通ネットワークの質向上やさらなるネットワーク形成を図ることが課題であると思われた。

6．結　論

本研究は，庄原市の交流人口をさらに増やし，そのことにより観光消費額を増大させ，新たな産業の創出等を図るため，市内最大の観光・集客拠点である国営国営備北丘陵公園を活用した地域振興について研究し，今後の課題を明確化することを目的として行った。

今後の研究課題としては，地域経営戦略，魅力ある空間づくり，吸引力の充分な活用と吸引力の拡充，観光人材の育成や観光業・観光支援業の創出が大切であると考える。